

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	12月	7日	(記入者) 石井宏子	
取材参加者	石井	小倉	西田	宮本	本井
取材対象先	奈良市：弘仁寺の木造天部立像				

所在地	奈良市虚空蔵町46				
所有者(取材 対応者)名	弘仁寺 ***住職 (個人情報守秘)		連絡先 0742-62-9303		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など： 弘仁寺				
市町村 指定文化財	彫刻	1	軀	木造天部立像=1988(昭和63)年3月3日指定	
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財指定理由	一木造で、丸顔に大きめの目鼻立ち、体部は幅と奥行きが十分あり、衣紋は翻波式衣紋が刻まれているなど平安時代前期の古様を残す。市内現存の天部像の中でも古いものの一つ。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	火災報知器・煙感知器は設置済みで、法要などの行事の時以外、基本的には堂内であろうそくなどは使用しないようにしている。	機器も設置、ご住職は境内にお住まいなので、早い対応が可能だと思う。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	アライグマ、ハクビシン、鹿、猿などの他、テンが柿茸をバラバラにすることもある。4-5年前に檻を設置したこともあるが、引き上げた。	近隣の田畑にも、イノシンや鹿よけの電線を張る等の対策をされてたこともあるが、効果は薄いようだった。
保存～継承へ 苦労と今後の課題と対策	平安期からの古刹だが、江戸時代の再建後の本堂も現住職が近年修理を終えられたので、当分の間、建物等の心配はないとのこと、美しい伽藍を守っておられる。ただ、基本的には、ご住職ご夫妻のお二人で管理運営・対応をされており、広い境内の維持には、大型の機械を使って整備をしておられるものの、ご苦労が多い。境内整備のみならず、行事の用意(例えば、6月の黄金ちまき会式の"ちまき"は手作りされている)なども負担が大きくなっているとのことだった。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

古い元号寺である弘仁寺は、大きな兵火をくぐりぬけて守られてきたお寺で(現在、本堂厨子を守る四天王像は、戦火を逃れるため畑に埋めて守ったとの伝承もあるとのこと)山の辺の道沿いで南北の交流も多く、奈良市にある天部像の中でも古いものが伝わっている。行政の文化財関係の方も来訪されているようだ。ただ、ご住職は今後、お寺をどのように引き継いでゆくか、課題も多いと感じておられる様子だった。寺には奈良市指定の有形民俗文化財の算額もあり、ご住職は長年、和算を子供たちに教える活動も続けておられ、こちら熱意をもって後継者の育成を模索・努力されている姿勢にも頭が下がる思いがした。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	12月	7日	(記入者) 石井宏子	
取材参加者	石井	小倉	西田	宮本	本井
取材対象先	奈良市：弘仁寺の木造天部立像				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 木造天部立像

文化財 (正面写真)	文化財 (安置全体写真)
	

安置されている本堂外観

境内の様子

<p>↓本堂 (県指定有形文化財)</p> 	 <p>←本堂と明星堂</p>	 <p>←奥の院付近</p> 
---	--	---

文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入

天部立像は像高157.4cm、檜の一木像。丸顔で大きな目鼻立ち、像体部は幅・奥行も持つ翻波式衣文が刻まれた平安古像で、桁行8間・梁行6間の重層瓦葺きの大きな本堂の内陣、宮殿厨子の脇壇に安置されている。弘仁寺は奈良市東南部、山の辺北道の中ほどの虚空蔵山の山腹にあることから、天理北東部との関わりも深く、明治初期に廃寺となった滝本町・桃尾の滝周辺の寺から移された伝承を持つ。

弘仁寺は815(弘仁6)年に嵯峨天皇の勅願によって創建されたとも、虚空蔵山に流星が落ちるのを見た弘法大師空海が807(大同2)年に創建したとも伝わる(国重文の明星菩薩立像の尊名はこの逸話に由来)。山頂には鏡が埋められているとも言われ、古くから信仰の対象だった。中世には華嚴宗に属し多くの堂宇があったが、1572(元亀3)年松永久秀の兵火により伽藍の大部分を焼失。本堂は江戸時代(17世紀)に僧宗全らの尽力で大修理、再興された。ご本尊の虚空蔵菩薩は「知恵の虚空蔵さん」「高樋の虚空蔵さん」と今も親しまれ、4月13日の「十三詣り」は有名。本堂の中には子供たちの書がたくさん飾られている。